

週間感染症情報

21週 22週

2026年21週～22週 2026年5月18日より2026年5月31日まで

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)	3	
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		1
溶連菌感染症	27	14
手足口病	5	3
ヘルパンギーナ		1
伝染性紅斑		
感染性胃腸炎	45	51
ロタウイルス(再掲)		
ノロウイルス(再掲)	1	1
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹	1	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	2	7
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症	1	1
RSウイルス感染症		
マイコプラズマ感染症	2	2
ヒトメタニューモウイルス	2	1
インフルエンザ	1	
インフルエンザ A		
インフルエンザ B	1	
新型コロナウイルス感染症	1	1

2週間分の報告です。インフルエンザ・新型コロナウイルスの報告はほとんどありませんでした。

百日咳は市内小学5年で、無熱で嘔吐を伴う激しい咳でした。右下のグラフのように、2025年は80例の報告があり、4月から9月にかけて流行しました。激しい咳が続く場合は、百日咳も鑑別診断に入れてください。2か月になったら五種混合を接種しましょう。市内全域で、溶連菌感染症が増えています。手足口病やヘルパンギーナなど夏のウイルス性感染症をみかけるようになりました。

右のグラフは麻疹の報告数の推移です。麻疹は感染力が強く、特別な

治療法はありません。高熱が1週間続き、肺炎など合併症を起こし、

現在でも1000人に一人は亡くなります。2026年は21週までに511例と急増しています。多くは、ワクチン未接種や不明の症例です。

2024年、世界で47万例の報告があり、9万5000人が亡くなっています。

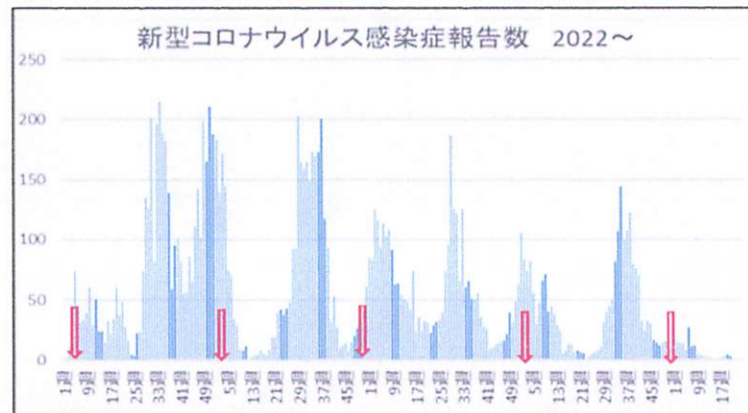
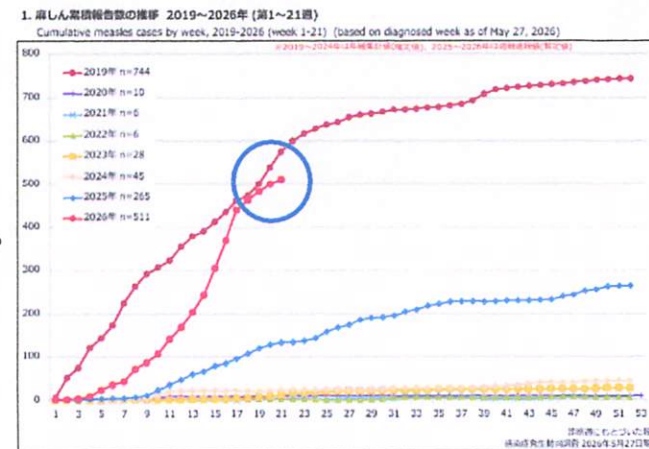
麻疹はワクチンで予防できる病気です。接種歴を確認しましょう。

1歳と年長になったら、すぐにMRワクチンを接種しましょう。

感染性胃腸炎は複数のウイルス性胃腸炎が流行しています。

ノロウイルス抗原陽性例が2例あり、クラス内流行がありました。

熱がなくても咳をしている場合は、マスクの着用をお願いします。手洗い・換気に努めて下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)

三宅内科小児科医院 三宅真砂子